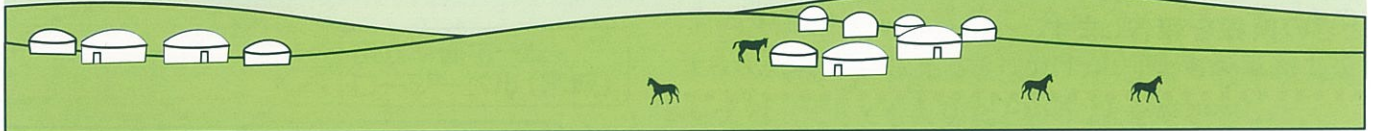


# Newsletter

vol.31

子どもシェルター全国ネットワーク会議りポート●  
「ぴあ・かもみーる」日記⑩●



## 新年挨拶

## 子どもセンターパオ理事長 多田元

### ひろがりゆく子ども支援の輪！

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年で子どもセンターパオは10周年を迎えました。皆様のあたたかいご支援に心から感謝申し上げます。

シェルター丘のいえ、自立援助ホーム（ステップハウス）ぴあ・かもみーるで生活した子どもたちは新年で50人を超えます。ささやかな支援ですが、ひとり一人がそれぞれに自分らしく社会に旅立ち、生きている姿に励まされています。いま、仲間のシェルター、自立援助ホームは北海道から沖縄まで全国に15カ所にひろがっています。このネットワークで支えあいながら、新年も子どもたちと共に歩みたいと思います。

福島県で5年前の東日本大震災、津波、原発事故にあって、横浜に避難した小学生が、学校でばい菌と呼ばれたりするいじめを受けて、学校にも行けなくなった事件が報道されました。彼は「いままで、何回も死のうと思った。でも震災でいっばい死んだから、つらいけど僕は生きようと決めた」と手記に書いています。地震と津波で家族や友達や住んでいる家や、大切なものを一瞬に失ったたくさんの人がいるなかで、生きのびることができたのだから、自分は死んではいけないといじめのつらさに耐えたのでしょう。彼はフリースクールに居場所を見つけることができたと言っています。

ますが、その居場所があって、彼自身のやさしさとまわりの人のやさしさが支えになったのではないかと思います。

競争に勝ち残ることを子どもに期待するおとなは「弱さ」の価値を否定します。しかし、震災や津波の前ではどんな人間も弱い存在です。その人間の弱さを認めあい、支えあうことができるやさしさと知恵が人間らしい文化を創造し、震災や津波に破壊された街を復興させることもできます。人間の文化でもっとも価値のあるものは人権思想だと思います。それは互いの弱さを認めあうやさしさから生まれるのだと思います。そのやさしさが失われる環境のなかで虐待やいじめが発生します。やさしさのタネをまき、共に生き共に育つ社会を願い、新年も子どもたちに寄り添って生きたいと決意を新たにしています。

